

# 自分の思いや考えを伝え合いながら、表現する力を高める国語学習 ～ 新聞活用、新聞作りの活動を通して ～

実践校第2年次 川上村立川上第一小学校 岩田 典久

## I はじめに

本校は、雄大な八ヶ岳の麓、千曲川の源流を抱く川上村にある。標高1,167メートルの高地にあることで、夏は涼しく、冬は大変厳しい寒さに見舞われる。

レタスに代表される高原野菜で有名な川上村は、四季折々の豊かな自然に恵まれており、その中で、本校の子どもたちは、夏は川遊び、冬はスケートなど、自然を満喫しながら伸び伸びと生活している。同時に農繁期を中心として積極的に畑仕事など農業労働に関わったり、地域における伝統行事へ進んで参加したりするといった特徴をもちながら過ごしている。

このような地域や子どもたちの特性を大切にしながら、本校では次のような学校教育目標を掲げて日々の教育活動を展開している。

### 学校教育目標—しゃくなげ（川上村の村花）—

し・自分から学ぶ子【課題や物事について、自分なりの考えをもち、自分から進んで学習する子】

や・やくそくを守る子【個人的な約束をはじめ、社会規範を身につけ、ルールを守ろうとする子】

く・くろうをいとわない子【面倒なこと、地味なことに自分から進んで取り組み、最後までやりぬく子】

な・なかよく助け合う子【だれとでも仲よく活動することができ、困っている人に手を差し伸べることができる子】

げ・げんりゅうの里を愛する子【川上村の自然・歴史・人々の営みに関心を持ち、ふるさとに愛着を感じることができる子】



写真1 しゃくなげの花

この学校教育目標を実現するために、全校研究テーマを「輝く個・つながる子らの育成」と設定し、今年度より国語を重点教科として研究を進めてきている。同時に、NIEの実践校2年次として職員2名が推進役となり、日々の学校生活の中に新聞を取り入れ、上記のテーマ達成に結びつく学習が成り立つよう実践を進めてきている。

## II NIEで高めたい力

### 1 表現力

(1) 新聞記事や新聞写真から読み取ったことや感じたことともに、自分の思いや考えを進んで発表することができる。

### 2 コミュニケーション力

(1) 相手に分かりやすく伝えるように工夫して、適切なコミュニケーションをとりながら、自らの考えを深めていくことができる。

### 3 情報活用力

(1) テーマを決め、テーマに向かって情報を収集することができる。(情報収集)

(2) 収集した情報をもとにして新聞作りに取り組むことができる。(情報処理)

(3) 出来上がった新聞の内容を発表・発信できる。(情報表現)

## III 研究の概要

### 1 実践対象学年、クラス数、児童数

学 年	ク ラ ス 数	児 童 数
4 年	1	2 6
5 年	1	2 6

- 2 科目 4年 国語、総合的な学習の時間  
5年 国語、社会

### 3 新聞の提供状況

#### (1) 08年度 購読計画表

新聞名	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
朝日		○				○	
毎日	○				○		
読売			○				○
日経	○			○			
産経			○				○
信濃毎日		○				○	

※購読計画とは別に、学校として信濃毎日を年間購読。

#### (2) 配置と整理、児童に触れさせるための工夫

①昨年度に引き続き、まず教職員が新聞に慣れ親しみ、活用へのヒントが得られることを目的に、職員室内の休憩場所に並べて置き、2時休み(課外)を終えると、2階のプレールーム内に設置した「新聞コーナー」に持って行き、子どもたちが閲覧できるようにした。

#### ②子どもたちが

- ・新聞や新聞に関係した本を自由に閲覧できる
- ・子ども向け的话题を気軽に見たり読んだりできる
- ・新聞を活用した自分の作品が掲示できる
- ・新聞に関係したコンクールや応募についての情報が得られる

ことを目的に、参加型の「新聞コーナー」を設置した。



写真2 フレールームに設置した新聞コーナー

写真3 自分の作品を見る子どもたち



昨年度に比べ、人通りの多いところに設置したためか、新聞コーナーに足を止めて、新聞を読んだり作品を見たりして行く姿が多く見られるようになった。また、新聞を活用した自分の作品が掲示されるコーナーができたことにより、新聞に対する興味・関心が増し、新聞を通して積極的に自己表現する(書き表す)姿が見られるようになった。

### 4 新聞を取り入れた授業をする上で工夫したこと

#### (1) 新聞作りが楽しいものになるような支援・手立て

上記Ⅱ【育てたい力】-3【情報活用力】に関わって、「新聞作りはむずかしい」から、「新聞作りって楽しいね!」という意欲を高めるため、次のような支援・手立てを行った。

- ①国語の学習と他教科(社会、総合、特活)と関連付けて、伝えたい中身を豊かにし、目的意識を高めた。
- ②伝えたい相手を明確にさせ、見通しを持って取り組ませた。
- ③子どもたちの「うまく書きたい」という気持ちと新聞記者との出会いの場を設定し、プロの技能を学び、楽しさや次への意欲(コンクール)が高まるよう支援した。
- ④グループで作る新聞では、写真やレイアウトに興味がある子、文を書くのが上手な子、人と接し話を聞くのが好きな子など、その子その子のよさが生かされるよう、子どもたちの自主性に配慮しつつも分担やペアの組み方に助言を行った。



## 2. 展開の概要

- ①よく見るテレビ番組欄から、自分がよく見る放送局とはどこなのか、伝え合う。
- ②あまり見られないNHKと民放との違いを考えたり調べたりして、自分の考えをまとめる。  
(本時)
- ③放送局の大切な役割は何か考え合い、調べる。
- ④放送局が大切に考えているのは、ニュース番組であることに気づかせる。
- ⑤ニュース番組ができるまでの流れをつかむ。
- ⑥わかりやすい放送のために、どんな工夫をしているか部門ごとに予想し、調べる。
- ⑦調べた結果をまとめ、わかりやすい放送のための工夫についてまとめる。
- ⑧世界を結ぶ放送に、日本の技術を生かして、海底ケーブルが大きな役割を果たしている事を学ぶ。
- ⑨テレビ番組と新聞の違いを比較検討し、双方のこれからの未来について考える。

## 3. 本時の主眼

新聞のテレビ欄から、クラスみんながよく見るテレビ番組とその放送局を伝え合いってきた子ども達が、あまり見られないNHKと民放との違いを考え、NHKの存在意義と課題について、朝日こども新聞の記事から調べながら学ぶことを通し、NHKの存在意義について自分なりに考えを深めることができる。

## 4. 指導上の留意点

- ・NHKの人氣があまりないことを振り返る。また、NHKは主に受信料から成り立ち、民放は主に広告料から経営が成り立っていることについて押さえる。
- ・NHKの存在意義と課題については、朝日こども新聞の記事を全体で意味を正確に捉えながら読み深められるようにする。

## 5. 展開

段	学 習 活 動	予想される児童の発言と動き	指導 支援 (○) 評価 (★)	時	備 考
導 入	1 前回の授業を振り返る。	○よく見る番組について出し合おう。 ・「僕はよくポケモン見る。」 ・「私はバンキシャ！」	○前回出されたよく見るテレビ番組を印した番組表から想起させる。	10:55	昨日の新聞テレビ欄の印刷用紙配布 学習カード配布
		○出された番組の中から、それぞれの放送局の名前を伝え合う。 ・「僕はSBCだから、TBSをよく見るよ。」 ・「私はやっぱりTSBで、テレビ信州。」 ・「僕はほとんどNHKを見ないなあ。」	○よく見る番組が、どの放送局なのか確認させる。 ・中央局と地方局との違いについては、子どもから出させて確認する。		
展 開	2 NHKの存在について考えを出し合う。  3 NHKと他の放送局の違いについて、知っていることを出し合う。	○NHKにずいぶん人氣がないけれど、なぜそうなのか、理由を伝え合う。 ・「なんかあんまりおもしろい番組やってないから。」 ・「お笑い番組が充実していないんだよ。」 ・「堅いイメージがあるからです。でも、NHKは信用できる感じもあります。」 ・「大事なニュースになると、うちはNHKで確認することが多いよ。」	○NHKの番組を見る者と見ない者に分けて、それぞれの印象や考えうい出し合せて、議論が寄り深まるようにする。 ・NHKと民放とのイメージの差を浮き彫りにさせられる発言に着目させ、NHKの存在意義へ展開できる発言を留めておく。	11:00	「朝日こども新聞」配布
		○NHKと他の民放との違いを知っているか伝え合う。 ・「聞いたことがある！お母さんがNHKは受信料取るって言った。」 ・「民放は・・・、そうかCMとかの広告料から成り立っているんだ。」 ・「でもさあ、NHKってテレビがあるだけで、NHKの番組を見ていなくても払わなきゃいけないんだよねえ。」 ・「なんか嫌だなあ。」 ・「でも、国がわざわざやっていることの意味だっと思うよ。」	○NHKと民放との違いについて知っていることを出し合わせる。 ・それぞれの経営方法については、子ども達が知らない場合は黒板に図解して示し、説明を加える。 ・NHKの受信料について、子どもたちの素直な思いを出すことができるように声がけする。 ・NHK受信料肯定派と反対派に意見を分け、それぞれの発言の根拠がわかるように板書する。 ★NHKと民放の違いがわかったか。		
	4 資料から読み取れる内容について、さらに調べ読みしながら				

	ら考えを深める。	○配付資料から読み取れる内容についてまとめ、自分たちの考えと照らし合わせて再び考えていく。 ・「なに！！受信料未払いの問題がやっぱりあるのか。気持ちもわかるなあ。」 ・「NHK の職員の横領とか書いてある」 ・「でも、国がやる放送局の意味も大切だと思うから、考えさせられるね。」	○配布資料から、子どもたちの考えてきたことの解決になる場所をアンダーラインさせながら、自分たちの考えをさらに深めさせる。 ・NHK の課題だけでなく、NHK の存在意義についても考えている子の意見も出させていく。		
終末	5 授業の見返しと、その発表をする。	○今日の授業をふり返る。 ・「やっぱり国が正しいと考える情報を NHK が出す必要があると思う。」 ・「ニュースの大切さや、受信料と NHK の存在について考えさせられました。」	○自分がメモしてきた友の意見や、1 時間授業してきた自分の考えを振り返り、学習カードに書かせる。 ★自分なりに NHK の存在意義について考えることができたか。	11:35	学習カード

## V 実践学級の単元学習の報告から

### 1. 単元名 「材料の選び方を考えよう」

～「アップ」あるいは「ルーズ」の特徴を生かして、新聞を作ろう～

### 2. 単元設定の理由

#### (1) 児童の実態

子どもたちは4年生になり、物語教材「三つのお願い」「白いぼうし」などを通して、登場人物の気持ち、場面の移り変わりや情景を、叙述をもとに想像しながら読み取る学習をしてきた。また、説明文の学習については、1学期に『「かむ」ことの力』を通して、一つ一つの段落がつながって少し大きな意味のまとまりを作り、「始め」（話題提示）、「なか」、「終わり」（まとめ）のように文章全体を構成することを学習してきている。

国語の学習についてのアンケートをみると、国語の学習が「好き」「どちらかといえば好き」と答えた子は、全体の80%近くになり、国語が好きの子が多いことがわかる。その中でも、「本（教科書）を読むこと」「漢字や言葉のきまりを覚えること」を好む子が多い。国語の学習で嫌いなこととしては、順に「話すこと」「書くこと」「覚えること」である。

一方、新聞を活用した学習活動では、1学期に社会科「ごみをへらそう」の単元で、ごみをテーマに、一人ひとりが「ごみ新聞」を作った。そして、作った新聞をもとに、プロの記者にアドバイスをしてもらった。また、新聞の「見出し」に関わる学習もしてきている。

2学期になり、教科書教材である「新聞記者になろう」では、グループで記事について話し合い、進んで取材を行い、見出しや構成、割り付けなどを工夫して壁新聞を作ることができた。

#### (2) 単元の価値

児童が触れるメディアを通じた情報は、文字言語ばかりではなく、むしろ映像を中心とした視覚情報のほうが多いと思われる。4年生ともなると、特にテレビの映像を通してさまざまな情報を取り入れていると思われるが、テレビの流す情報がそのまま真実だと思いこんでいることも多いに違いない。メディアからの影響を受けるであろう子ども達に、メディアを通じて受け取る情報が、一定の価値判断・意図に基づいて取捨選択されたものであることに気づかせたい。

本単元では、説明文「アップとルーズで伝える」で、テレビや新聞などを通してわたしたちに届けられる映像や写真が、送り手の目的や意図によって取捨選択されたものであることを、基本的な映像の技法である「アップ」と「ルーズ」を通して考えさせていきたい。

さらに、この学習を踏まえて、『四年生から発信します』として「学校のクラブ」を3年生に紹介する新聞を作るということで、情報の収集から発信までの活動を行う。ここでは「相

手が知りたいと思うことは何か」を考えて、材料の収集や選択、写真の用い方、割り付けを行って新聞を作るようにさせたい。

以上のことから、本単元を設定した。

### 3. 単元目標

- (1) 対比・まとめなど、段落相互の関係に気をつけることで内容を把握しやすくなることを知り、読み方に生かすとともに、伝えたいことと伝える方法について興味を持つ。
- (2) 「学校のクラブ」を紹介するために取材し、相手と目的に応じて選材してわかりやすく伝える。

### 4. 単元の評価基準

- (1) 伝える目的や相手に応じて、情報の材料や選び方や表現方法が異なっていることに気づき、自分が表現していくときに役立てていこうとしている。 (関心・意欲・態度)
- (2) 「学校のクラブ」について取材したことを相手(3年生)に応じて分かりやすく書いている。 (書くこと)
- (3) 相手や目的に応じ、必要な材料を集めたり、選択したりして新聞を作っている。 (書くこと)
- (4) それぞれの段落のつながりを考え、文章構成をとらえている。 (読むこと)
- (5) アップとルーズの働きについて、写真と対応させながら中心となる語や文をとらえて読んでいる。 (読むこと)

### 5. 単元展開 全17時間

時	学 習 活 動
1	◇「アップとルーズで伝える」を読み、何についての文章かを大きくつかみ、見通しを持つ。
2	◇写真と文章の関係やそれぞれの段落の全体の役割に注意しながら読む。(①②③段落)
3	◇ " (④⑤⑥段落)
4	◇筆者の伝えたいことをとらえる。(⑦⑧段落) ・⑦段落を読み、新聞記事の写真でも「アップ」と「ルーズ」があることを知る。 ・グループごとに、学校にある新聞から「アップ」と「ルーズ」のそれぞれの写真を切り取って貼り、気づいたことを話し合う。
5	・新聞写真1(アップ)、2(ルーズ)を見て何がわかるか自分の考えを書く。
6	・新聞写真1(アップ)、2(ルーズ)から何がわかるかグループや全体で話し合い
【本時】	写真が何を伝えたいか読み取る。
7	◇「四年三組から発信します」を読み、活動の見通しを持つ。
8	◇教科書作例の工夫に気づいたり、これからの学習計画を立てたりする。
9	◇友だちと協力して取材や作業をし、相手や目的にあった選材、表現の工夫をして「学校のクラブ」を紹介する新聞を作る。
15	
16	◇相手(読み手)である3年生に発信する。
17	◇コラム「選んで伝える」や教材文読み返し、自分たちの活動を振り返る。

### 6. 本時案

- (1) 本時の位置 (全17時間中の第6時)  
前時：新聞写真1(アップ)、2(ルーズ)を見て何がわかるか自分の考えを学習カードに書いた。  
次時：「四年三組から発信します」を読み、活動の見通しを持つ。
- (2) 本時の主眼  
新聞写真1(アップ)、2(ルーズ)を見て何がわかるか自分の考えを持った子どもたちが、グループやクラス全体で話し合い、考える活動を通して、写真が何を伝えたいか読み取ることができる。

(3) 指導上の留意点

- ・身近で話し合いをしやすい写真を、教師が事前に用意しておく。
- ・グループあるいは全体での話し合いは、ポイント(観点)に沿って話し合うようにさせる。

(4) 展 開

段階	学 習 活 動	予想される児童の反応	◎指導・支援 ◇評価	時間
導 入	1.本時の学習内容を 確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループや全体で何がわかるか話し合うんだね。</li> <li>・ぼくの考えは、どうだろう。</li> <li>・みんなの考えを聞きたいな。</li> </ul>	◎新聞写真1(アッ)と2(ルズ)の2枚の写真を事前に用意し、印刷しておく。	3
展 開	2.何がわかるかグループで話し合い、自分の考えを書く。.	<p style="text-align: center;"><b>写真1と写真2を見て何がわかるだろう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おばあさんとヤギが大きく写っているね。</li> <li>・おばあさんは草を刈っている。</li> <li>・ヤギは二匹いて草を食べているね。</li> <li>・自分の家の畑かな?他に人はいないのかな。よくわからないね。</li> </ul>	◎司会を決めておき、前時に書いた考えを一人ずつ出し合ってから話し合うようにする。	1 5
	3.何がわかるかクラス全体で話し合い、自分の考えを深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木の葉がオレンジや黄色、緑色もある。</li> <li>・後ろに見える山が雪化粧してきれい。</li> <li>・スキー場があるけれど、雪はないね。</li> <li>・季節は秋からもうすぐ冬のところかな。</li> </ul>	◎話し合いのポイント(観点)を掲示し、これに沿って話し合うよう助言する。	
	4.写真1と写真2は何を伝えたいのか、自分の考えを書く。 数名が発表する。	<p style="text-align: center;"><b>写真1と写真2は何を伝えたいのだろう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おばあさんはヤギのえさにするために草を刈っているのかな?</li> <li>・やぎは自分で草を食べられるからそうじゃないよ。</li> <li>・やぎはおばあさんの手伝いをしていると思う。</li> </ul>	◎各グループの司会者に、それぞれ話し合われた内容を(概要)話してもらい、全体に広める。	1 5
展 開	4.写真1と写真2は何を伝えたいのか、自分の考えを書く。 数名が発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・晴れていて天気がいい感じだね</li> <li>・今頃の写真かな?遠くの山には雪が少しあるけれど、暖かい感じがする。</li> <li>・今頃だと遠くの山にはもっと雪がつもっていてもいいと思う。</li> </ul>	◎全体での話し合いが深まっていくように、「写真の主役はだれか」「見出しをつけるとしたら」など、教師側からの発問も用意しておく。	
終 末	4.写真1と写真2は何を伝えたいのか、自分の考えを書く。 数名が発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大事な場所を、もっと多くの人が草刈りをしていてヤギも手伝っている。」ということ。</li> <li>・「人も動物もみんなで自然を守っている」ということ。</li> </ul>	◎必要により、新聞の日付、場所などのデータも紹介する。	1 2
展 開	4.写真1と写真2は何を伝えたいのか、自分の考えを書く。 数名が発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「遠くの山にほとんど雪がないぞ」ということ。</li> <li>・「暖かい日が多くて、いつもと違うぞ」ということ。</li> </ul>	◎グループや全体で話し合ったことをもとに、学習の振り返りも兼ねながら書くようにさせる。 ◇写真が何を伝えたいか読み取ることができたか。	

写 真 1



遊休農地だった棚田で草刈りをする市民有志。ヤギも一役買った。千曲市姨捨地区

国の名勝「田毎の月」で知られる千曲市姨捨地区で、市内の希少植物をまとめて保護し育てる「保全圃」の整備作業が始まった。予定地は、遊休農地だった棚田約一畝。二十三日は、事業を進める市の呼び掛けで市民有志四十五人が初めて草刈りをした。佐久市内の牧場から借りたヤギ二匹も、助っ人として雑草を食べた。

千曲市は五年ほど前、雑草が茂っていたこの棚田を買収した。当初はヒオトシゴ（生物の生息空間）にする予定だったが、維持管理をするボランティアが集まらず断念。その後、国から補助金を得られる保全圃に計画変更した。

この日は、棚田などの環境保全活動に取り組む複数の市民グループのメンバーを中心に作業。午前の三時間ほど多くを刈り終えた。かまを使って汗を流した渡辺すみ子さん（73）は「きちんと整備して、たくさんの方が訪れる場所になってほしい」と話した。

市内ではノジトラノオやデンジソウといった希少植物が確認されている。市は十一月に市民参加の「生物多様性保全協議会」を設け、どんな保全圃にするかを話し合う。今後三年間で整備していく。

棚田草刈り  
ヤギも応援

千曲市姨捨

信濃毎日新聞 朝刊 2008. 10. 24 (金)

送り手からのメッセージ

「棚田の草刈り ヤギも応援」の写真

これを取材した記者は、姨捨の棚田で市民が参加しての草刈りが初めて行われたうえ、ヤギが加わったことにニュース性を感じました。そのため、記事の要点をまとめるリード（第一段落）で、「市民有志四十五人が初めて草刈をした」と同時に、「佐久市内の牧場から借りたヤギ二匹も“助っ人”として雑草を食べた」と記しています。

それを象徴する写真は、草刈りする市民と草を食べるヤギが一緒にいることになります。棚田なので、棚田とわかるアングルの写真もありますが、その写真にはヤギが写っていません。棚田と分かりにくいのですが、市民と一緒にヤギが写っている写真を掲載しました。

以下は私の体験ですが、棚田で田植えや稲刈りなどを行っているとき、何の農作業をしているかと同時に、棚田であると分かる写真を撮るのは意外と難しいのです。姨捨の棚田は、水田と水田の間の畦部分の斜面が高く、斜面の下から撮影したのでは棚田にいることは分かりません。このため、斜面の上から下の水田で作業をしている人を撮ることになります。下方に広がる棚田を分かるように撮影すると、作業している人が小さくしか写らず作業の様子がはっきりしません。作業の様子が分かるように人を大きめに撮影すると、棚田が広がる様子はなかなか撮れません。作業する人と広がる棚田と一緒に撮れる場所もあったはずですが、そこで作業していないとその写真は撮れません。記事では書いても、思うような写真が撮れないこともあります。

信濃毎日新聞社 読者センター 畑 光一



## 写 真 2



県内の里でも紅葉が始まった10月下旬になっても、北アルプスは雪がほとんどない状態が続いている。移動性高気圧に覆われて暖かい日が続き、雪が降ってもすぐ解けてしまうためだ。山小屋関係者も「例年に比べて暖かい」とちょっぴり驚いている。

北アルプス北部で山小屋を経営する白馬館（北安曇郡白馬村）によると、白馬岳（2,932㍍）や五竜岳（2,814㍍）一帯では、9月26日夜から27日朝に雪が降ったが、3日ほどで解けた。その後は本格的な降雪がなく、朝方に霜柱ができることが何度かあった程度。里から眺める白馬三山にも、雪はほとんど見えない。

雪ほとんどない北ア  
県内暖かい日続く

白馬村から望む白馬三山。雪がほとんどなく岩肌が見える=21日

槍ヶ岳（3,180㍍）直下の槍ヶ岳山荘によると、この5日間は快晴続き。山荘周辺では14日に雪が10㍍ほど積もったが、やはりほとんど解けた。標高約2300㍍の湊沢ヒュッテも「市街地と同じで日中はぽかぽか陽気」。

長野地方気象台によると、県内は高気圧に覆われて寒気が南下しにくい状態が続き、10月は平地の気温も平年より高めで推移。来月上旬までは暖かい見込みといい、真っ白な山容を楽しめるのは少し先になりそうだ。

信濃毎日新聞 朝刊 2008. 10. 22 (水)

### 送り手からのメッセージ

#### 「雪 ほとんどない」の写真

白馬三山に雪が積もっているという写真なら、山をアップに撮ることがあります。それは、積もっている雪に焦点をあてることになるからです。この記事は、10月下旬になっても北アルプスに雪が積もっていないという内容です。白馬三山の場合、岩が白いため、遠目には夏でも雪があるように見えます。アップにすると、岩の白か雪の白かはっきりせず、雪が積もっているのではないかと読者に誤解を与えることになりかねません。

また、山ろくまで写すことによって、どの場所から見た白馬三山なのか、ふもとの紅葉や緑の木々の様子も分かります。

信濃毎日新聞社 読者センター 畑 光一

## 8. 児童の様子から

本時は、四、五人のグループに分かれ意見を出し合い、グループごとに発表した。「おばあさんの表情は分かるけれど、周りにほかの人がいるか分からない」「おばあさんはどうして草を刈っているのかな?」「山の形や高さは分かるけれど、葉の様子は分からない」「山や木々の色から秋ということが分かる」など、子どもたちは写真を手がかりに一生懸命見つけるのだが、わたしの発問の悪さや見通しの甘さもあってか、後半授業が行き詰まり、気持ちもめあて(目標)も中途半端のまま終わってしまった。

## 9. この授業を通じて授業者が学んだこと

授業研究会で、「写真だけではあまりにも情報が少なすぎて考えが出せない。記事も一緒に出した方がよかった」「写真に見出しを付けさせ、実際の紙面の見出しと比較させたらいいのでは」「目的意識の問題で、例えば『こういう新聞を作りたくて二枚の写真をとったがどちらがいいのか』といった時に、新聞写真を使うのがいいのでは」等々、活発に意見が出された。ねらいに合った写真をいくつか探したが決定的なものがなく、最後まで迷って見つけていたこと。写真に期待を寄せすぎ、記事をおろそかにしてしまったこと。そして、必要感のない段階でこの活動(本時)を組み入れたこと。授業者(私自身)の反省である。

## 写真6 本校公開授業を伝える新聞記事

成20年) 10月30日(木曜日)

信濃毎日

### 新聞写真見比べ意見

研究員 川上第一小児童違い学ぶ  
教育に新聞を活用するNIEの実践指針校の川上第一小学校(川上町)で二十九日、東信NIE研究が開かれた。四年生二十五人が国語の授業で新聞写真二枚を見比べ、得られる情報の違いを話し合った。  
人物や物に迫って写した構図と、風景写真のように遠くから写した構図を比較し、伝わる情報の違いを学ぶのが狙い。信濃毎日新聞の十月の朝刊や、千曲市の棚田で草刈をする女性と雑草を食べるヤシの写真、白馬村から望む白馬三山の写真を教材に選んだ。  
児童たちは四、五人の班に分かれ、「おばあさんの表情が、誰かから出てきた。実際の紙面の見出しと比較させてはどうか」といった提案が見学



2枚の新聞写真を見比べて、得られる情報の違いを話し合う児童

信濃毎日新聞 朝刊 2008. 10. 30

## VI 研究のまとめ

### 1. 研究全体に関わって

- (1) 重点研究「国語」の研究とNIEの実践が、子どもたちの国語学習の意欲を高めたり、授業を活発なものにした。
- (2) 研究テーマ、サブテーマの内容が広すぎる。もっと絞り込んだものにしていく。
- (3) 友だちと関わりながら追究を深めていく学習作りのあり方をさらに探っていく。

### 2. 実践授業に関わって

- (1) 新聞記事を書く技能の向上だけでなく、友だちと協力して楽しく新聞を作ることができた。
- (2) 新聞写真の選び方、目的意識を高める単元展開のあり方、小見出しの重要性など、実践から多くのことが示唆された。
- (3) 新聞を活用した学習により、社会事象への関心が高まり、新聞が子どもたちのコミュニケーションの手段となり、会話が活発になった。

## VII 残された課題

### 1. 児童にとって

- (1) 難しい漢字や言葉、文章が多く、読みこなせないこと。(特に低・中学年)

### 2. 教師(実践者)にとって

- (1) 素材を探すのに時間がかかる。(学校での蓄積、新聞社のサポートなどが必要)
- (2) 教材化の視点がむずかしい。